

97号墳

97号墳は、昭和42年に95、96号墳と共に発掘調査したものです。

古墳群が立地する段丘でも最も低い位置にあり、古くから道路わきに横穴式石室の断面が露出していたようです。



97号墳の横穴式石室

横穴式石室は奥から約2.2mが残存していました。幅は奥壁で78cmで、古墳群の中では最も小さい部類の石室です。墳丘は破壊が激しく、規模や形などは不明でした。

副葬品は須恵器と鉄鏃があり、奥壁付近を中心に出土しています。



97号墳出土遺物

これらの遺物から、古墳の築造時期は7世紀前半～中頃と考えられます。このような小規模な石室は副葬品が全くない場合が多く、時期の推定できるケースが少ないので、本墳は貴重な例といえるでしょう。

池田町教育委員会「願成寺西墳之越古墳群資料調査報告書」1999年